

□ アナリスト週間相場予想

	原油 Oil	ガソリン Oil	灯油 Oil
江崎			
西			

Pick up News

[注目スケジュール]

- 11/12 原油・石油製品供給統計週報 (石油連盟)
- 13 米エネルギー情報局 (EIA) 週間在庫統計
- 14 米商品先物取引委員会 (CFTC) 建玉報告

□ テクニカル分析 (担当: 西 勝之)



東京ガソリン先現日足は本日10/27安値44890をブレイクダウン、先限一代足でも新安値更新となっております。こぶる日足は悪い。このまま44890のブレイクダウンが本物かどうかフィルターをかけて(ここでは2日引け値ルールを採用)もしも11/10の引け値が44890円を回復できない場合は追っかけて売っていく方針を提示することになる。しかしながらエネルギーセクターの他銘柄、原油と灯油は本日まだ10/27安値を更新するには至らずまだ灯油で45910円、原油で34470円のサポートラインを守っている。よってまだエネルギーセクターのボラティリティがおちつくまでは目先スプレッド戦略が望ましいと考える。具体的にはガソリンの売りクラック、ガソリン売り灯油買いを提示したい。ただし、ガソリン灯油のストラドルは中長期的には修正されるべき季節要因を抱えている(期先限月5月限はガソリンの方が灯油より高いと考えるのが通常)為、ガソ売り灯油買いのポジションが逆行し、値位置が逆転するような展開になった場合は灯油売りガソリン買いにポジションをひっくり返す準備をしておくべき事を付け加えておく。(11/7前引け現在)

□ ファンダメンタル分析 (担当: 江崎 和弘)

NY原油相場は60ドル割れが視野に入った。OPEC(石油輸出国機構)が日量150万バレルの減産を決定しているが、その効果もこれで帳消しになったと見るべきか。もともとOPECの産油枠の縛りは緩く、加盟国は国内事情と利益優先の考え方から闇増産に走ってきた経緯がある。例えば、米エネルギー情報局(EIA)は実際の減産幅は110万バレルに留まると見ているようである。なお、世界景気の後退による需要減少幅は一説によると200万バレルにも到達するようだ。仮にこの試算を元にすれば、供給過剰幅は90万バレル近いことになり、OPECが100万バレルの追加減産に打って出ても、その効果はすぐに吸収されかねないということになる。

また、米大統領選はオバマ候補の圧倒的勝利をもたらすとともに、上・下院ともに民主党が勢力を握る結果となった。オバマ次期大統領は経済公約に戦略備蓄在庫(SPR)の放出を掲げ、代替エネルギー推進と合わせて原油価格を下げることを目標としている。この辺りが共和党権とは異なるところで、市場の反応は売りに傾いている。政権移行は来年1月20日。それまでは景気刺激策の策定が中心となって、実際にSPRが放出される可能性は小さいと見るが、上値抑制要因としてはまさに絶好の口先介入となっている。

これまで60~70ドルのレンジを想定してきたが、下値メドは下方修正する必要があると見られる。とりあえずは5ドル刻みで下値切り下げの可能性を念頭に対処していきたい。需給要因で動いている現状からは、短期的には株価次第の面もある。株価・為替ともに先行き不透明感が高いため、戻り売り狙いで構えておきたい。

◆ 添付されている『取引の重要事項』をかならずご確認ください。

RE0071(許可取得日08/11/7)